

Just Now

I はじめに

座間市立入谷小学校は、神奈川県中央部にあり、座間市の中でも西部に面する小学校です。校舎の西側には田んぼが広がり、その先には相模川左岸用水路が流れ、周りに多種の植物が生い茂っています。

平成21年度、それまで「総合的な学習の時間」等について研究をしていた本校の職員は、県及び市の研究委託を受け、『進んで聞こう、話そう、わかり合おうとする子をめざして～コミュニケーション能力の素地を養う英語活動の工夫～』をテーマに「外国語活動」の研究をスタートさせました。

また、座間市では、昨年度「外国語活動基本計画」が策定され、新学習指導要領の移行期を受けて、市内の多くの学校で平成21年度には年間15時間、平成22年度には年間25時間の「外国語活動」の時間を設け、どの学校も年間35時間の完全実施に向けて準備を進めることになりました。

しかし、「コミュニケーションの素地って何?」「はてさて、担任主体の外国語活動の授業って、どんな感じで進めればいいの?」これからの研究に向けて、課題は山積み。研究会を開いても、先が見えない論議が続きました。



II 研究のスタートだからいい!

研究の始まりは、これからの「外国語活動」を円滑に実施していくためには、新学習指導要領に示さ

職員全員でとり組んだ 授業実践と教材開発

— 校内研究会 ゼロからのスタート、そして今 —

前田 善仁 Maeda Yoshihito
香川 麻理 Kagawa Mari
(神奈川県座間市立入谷小学校)

れた目標を理解することがありました。そこで、『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』を作られた、前文部科学省教科調査官であり、現在、大阪樟蔭女子大学教授の菅正隆先生を招聘し、「小学校外国語活動について」というテーマで本校の職員及び市内の先生方を対象に講演していただきました。

さすがに、菅先生のお話はわかりやすく、先の見えない本校の職員の気持ちを一気に変化させたのでした。先生から、「入谷小学校は研究をスタートしたばかり。だからいい。わくわく感の残っている高学年に、楽しく(interesting)、心を育てる指導をしてほしい」とのご助言を受け、カリスマ教授から魔法をかけられた私たちは、実に良いスタートを切ることができました。

III さあ、子どもと一緒に楽しもう!

菅先生の話を受け、校内研究会の方向性が見え出した先生方の動きが変わり始めました。まずは、高学年で実施されている「外国語活動」を、職員全員で見ることから始めました。その動きはやがて大きな成果となって表れ始めます。

(1) 授業実践部

高学年の先生方は、「外国語活動」の時間を全ての教職員および市内の他校の希望する教員に授業公開をしました。そして驚くことに、公開授業を参観した1～4学年の教員は、2学期になるとTT(チームティーチング)として学級担任と一緒に授業に参加することにし、3学期には全職員が主担当として子どもたちと授業を行いました。みんなで指導案を作り、みんなで『英語ノート』(文部科学省、2009)を使いながら、高学年の子どもたちと一緒に楽しく授業を進めたのです。

(2) 教材研究部

本校では、『英語ノート』を基本に授業を進めています。授業を進める中で、座間市の郷土の良さを感じさせたいという教師の願いから、児童の興味を引く教材が次々と作られていきました。

『英語ノート2』《Lesson 5 道案内をしよう》の単元では、教室を小さな町にレイアウトし、グループで目的地まで道案内をするといった活動を行います。そこで教材研究部を中心に、入谷小学校近辺の駅・店等を撮影しに行き教材を作成しました。子どもたちは、日頃から目にする店の写真などを見ながら道案内ができるので大喜びでした。

児童にとって身近な教材・教具を使うことで、笑顔あふれる「外国語活動」の授業が進められています。こうした教材等は次年度も活用できるようにラミネーター等で加工する工夫をしました。

本校には、「ワールドルーム」という教室が設置されていますが、この1年間で開発した教材・教具が整備されており、単元ごとに活用できるような工夫がなされています。



IV 児童の変容

本校では、研究を進めるにあたり、平成21年2月から児童の意識調査を実施しています。

現在6年生の児童が5年生の時からとっているアンケートの項目は11項目ですが、その中から注目すべき2点について述べたいと思います。

(1) 「英語の授業が好きですか？」との質問に対して、平成21年2月には、47%の児童が「好き」「どちらかといえば好き」と回答していました。平成22年2月に同じ質問をしたところ、86%の児童が「好き」「どちらかといえば好き」と回答しています。

(2) 「もし、あなたに外国人が英語で話しかけてきたらどうしますか？」との質問に対しては、平成21年2月には、「英語で受け答えをする」と回答した児童が5.8%でしたが、平成22年2月に同じ質問をしたところ、32.6%の児童が「英語で受け答えをする」と答えています。またさらに、日本語も使いながら、外国人と何らかの形で関わりを持つと答えた児童が平成21年2月には61.8%でしたが、平成22年2月には92.8%に増加しています。

表 1

質 問 (%) 現 6 学年対象	もし、あなたに外国人が英語で話しかけてきたらどうしますか？		
	H21.2	H21.6	H22.2
英語で受け答えをする	5.8	26.7	32.6
日本語で答える	56	66.3	60.2
だまっている	27.5	1.2	3.6
その場からにげる	10.7	5.8	3.6

「外国語活動」のねらいは、コミュニケーションの素地を養うことにあります。昨今、子どもたち同士の間関わりが減少している中、英語だからこそ友達同士で関わるができる、クラスの仲間の情報を共有できる等、今後も『英語ノート』を活用しながら児童の実態に合った「外国語活動」を行っていきたいと考えています。

V おわりに

本校の水曜日の朝は、「英語でのひとことレッスン」から始まります。先生方は皆笑顔で、「外国語活動」で使える英語の表現を学んでいるのです。校長先生は朝会で、「あいさつ」の大切さを児童に話し、ある時は教頭先生が前に立ち、「目と目であいさつをすることの大切さ」を伝え、全校児童全員で、「Good morning!」と言い合う等、全校が一体となってめざす子ども像に向かって研究を進めています。研究のスタートに種を蒔いてくださった菅正隆先生のご助言をもとに、今後も“楽しく”“笑顔で”研究を進めていきたいと思っています。